

例会報告 Rotary



ロータリーは世界の扉を開く
第2619回例会 令和2年7月31日
職業奉仕委員会

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 会長 塚 和信
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 幹事 下屋 勝比古
- 大垣共立銀行高山支店 4F
- 会報委員長 榎坂 純一

<会長の時間>

先般、臨時理事会を開催し「令和2年7月豪雨」において、災害義援金について協議をしました。劔田ガバナーより、九州地区への義援金の協力要請は来ておりましたが、まずは地元を優先にすべきと言う意見が多く、地元には総額10万円を、九州地区へは一人5000円で総額18,000円を義援金として送ることになりました。早速、21日に高山社会福祉協議会を通じ県共同募金会高山支部へ寄付をさせて頂きました。地元への寄付の様子は、新聞報道やLINEでご覧頂いていると思います。この時点で、県募金会高山支部へはまだ義援金が13万円ほどしか集っておらず、団体での募金は初めてということでした。義援金につきましては、特別会費から拠出させて頂きました。



先週の25~26日に、奥飛騨温泉郷「徳高壮山のホテル」で開催しました「お目覚め懇親会」に参加しました。その行く途中、何か所も土砂崩れにより片側通行の場所があり、また河川には大量の流木が積み重なっていて、記録的な豪雨による被害の大きさをまざまざと感じました。懇親会には11名の会員の方に参加を頂き、本年度初めての親睦会で、また皆さんも久々の懇親会ということで、大変盛り上がり楽しい時間を過ごさせて頂きました。野尻さんには大変お世話になりました。

奥飛騨温泉と言えば、2日に新徳高ロープウェイが、開業50周年を記念してリニューアルオープンしました。リニューアルしたのは、しらかば平駅から西徳高口駅までの第2ロープウェイのゴンドラです。オーストリアのカルパティク社製で、2階建、定員は105人で窓ガラスの面積が従来の1.5倍あり、冬場でも曇りにくい構造になっているそうです。

新徳高ロープウェイは、1970年の開業にこぎ着けるには大変苦労があったようです。戦後間もない1948年(昭和23年)高山商工会議所の常務理事だった三島栄一さんが、新徳高温泉の露天風呂から見た抜戸岳の山容にほれ込み、奥飛騨の観光開発に取り組む決心を固めたそうです。三島さんは、新徳高温泉から穂高連峰を超えて上高地へロープウェイを建設するという壮大な計画予定をしていました。当時の上宝村長を伴い、国鉄名古屋鉄道管理局(現在東海JR)の幹部たちに新徳高を案内し、観光地としての潜在的魅力をアピールしました。その後、その中の一人であった竹内外茂さんが名古屋鉄道の営業局長となり、構想が現実化に向かっていきました。しかし、上高地は自然公園法における「特別保護地区」で工作物の設置や森林伐採は原則認められず国が難色を示していました。また、上高地の温泉組合も「客を岐阜に取られる」と猛反発し、なかなか建設の承諾が得られませんでした。そのうちに、日本自身が公害などで環境問題をめぐる社会情勢が厳しくなり、「ぐずぐずしているとロープウェイの許可が難しくなるとし、岐阜県側のみで着工が決まったそうです。1970年7月に開業し、新徳高温泉駅から鍋平高原駅の第1区間と、しらかば平駅から西徳高口駅の第2区間からなり、全長3171メートル、高低差1036メートルで所要時間は25分程です。現在、奥飛騨観光開発(高山市)が経営をしています。もし、上高地までロープウェイが繋がって

たならば、冬でも上高地へ行くことが出来、両地域の観光の形は違っていたことと思われます。

本年度は、5月に地区大会があり4月の「桜を見る会」に変更になっていますが、新緑例会でロープウェイに乗り新緑を堪能し、野尻さんの「山のホテル」での温泉にはいり懇親会という企画もいいのではないのでしょうか。

<幹事報告>

- ◎社会福祉法人 岐阜県共同募金会 高山市支会より
・「令和2年7月岐阜県豪雨災害義援金」ご協力の御礼
- ◎濃飛グループガバナー補佐より
・ガバナー補佐訪問について 日程 8月28日(金)
※クラブ協議会は部門長出席にて例会後に行います
- ◎米山記念奨学委員会 委員長 伊藤 晃宏 様より
・カウンセラー研修会開催のご案内
日 時 9月6日(日) 10:00~11:20
場 所 名鉄ニューグランドホテル
- ◎高山あすなる会より
・第45回飛騨児童・生徒木工工作コンクールご協賛・ご後援・賞状名義使用のお願い
※新型コロナウイルス感染症対策のため、受賞作品の一般展示・表彰式は行いません

<受贈誌>

高山中央RC(活動計画書、会報)、美濃加茂RC(活動計画書)
(社)高山市文化協会(広報高山の文化No220)

<出席報告>

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
30名	-	30名	36名	83.33%

<本日のプログラム>

職業奉仕委員会

「コロナ禍と飛騨経済を考える」
委員長 黒木 正人



1. コロナ禍が飛騨高山の観光に与える影響

- ・星野リゾートによると、日本の観光市場規模は28兆円、このうち22兆円は国内旅行。過度な悲観は必要ない。国内需要をどう取り戻せるかがカギ。
- ・コロナ禍の影響は、飲食・宿泊から始まり、卸・小売・製造業、住宅関連から建設業・不動産業へとほぼ全業種に広がった。
- ・リーマンショックと違うのは、売上ゼロのショックと予期せぬサプライチェーンの崩壊。

例会報告

- ・インバウンドが4分の1を占める観光地、飛騨高山は今後どうなるか。
- ・平成31年・令和元年宿泊客数227万3千人、うちインバウンド61万2千人(インバウンド比率26.9%)→仮にインバウンドがゼロになると仮定すると→日本人観光客宿泊は166万1千人[現在の高山市宿泊収容人員358施設、19,479人]
- ・東日本大震災(平成23年)当時、宿泊客数184万人、うちインバウンド9万5千人、日本人観光客174万5千人[当時の高山市宿泊収容人員320施設、21,297人]数字だけ見て冷静に考えれば、とりあえず9年前に戻っただけともいえる。
- ・したがって、コロナ対応融資で1年しのげれば、個々の宿泊・飲食業は大変ではあるが、マスで考えれば、再生は十分可能である。
- ・淘汰されるのは、コロナ前から業績不振の企業か。
- ・ホテル・旅館は、売上より借入が大きくなると経営が苦しくなる
- ・金融面での再生方法には、DES(債務の株式化)、DDS(債務の劣後化)、債権放棄(第二会社方式)などがある。
- ・全国観光統計では、宿泊前年同月比2月▲14.0%、3月▲53.2%、4月▲80.9%、5月▲84.8%
- ・外国人宿泊者、同2月▲47.7%、3月▲88.1%、4月▲98.2%、5月▲98.6%
- ・日本人観光客、6月少し動き始め、7月から本格稼働の予定が・・・
- ・6月中旬から岐阜県内GOTキャンペーン(割引クーポン4時間で売り切れ)、7月から東海三県GOTキャンペーンやJR東海のGOTキャンペーンで動きだす(まずは近隣から)予定が・・・
- ・8月以降は、官公庁のGOTトラベル事業で本格回復(そして広域へ)するはずだったが・・・
- ・宿泊・飲食業は、最初にどれだけ戻せるかがカギと言われている。高山は一斉にスタートダッシュするつもりが、7月中旬の豪雨で大きく水を差され、このところのコロナ感染者数増加で東京外しの中途半端なGOTトラベル事業で、スタートダッシュに完全に出遅れ状態。
- ・もう焦っても仕方がない。当面の資金繰りはコロナ融資で対応できると割り切る。
- ・当面は日本人観光客の誘致に全力を注ぐ。北陸・飛騨・信州との連携など広域的な誘客(地域の面的再生ではなく、広域的な連携)、修学旅行を計画的に入れていく(必ずリピーターとなる)、など地道な活動を続ける。
- ・インバウンドはコロナが収まらない限り当面は無理。今まで通り計画的に高山市役所海外戦略室によるインバウンド誘致を再び推進すればいつかは戻る。

2. 飛騨地域の金融経済状況

- ・4~6月のコロナ融資による増加額は、純増で約154億円
- ・岐阜県では高山の融資額が市町村別で第1位。岐阜市よりも多い
- ・3ヶ月で約150億円の真水が入っている。それにプラスして持続化給付金と特別定額給付金が合わせて150億円。
- ・昨年1年間で飛騨地方全体の融資残高は、マイナス8億24百万円。そんな地域に約300億円ものお金が真水で注入されている。
- ・そして、まだそのほとんどが預金等で歩留まっているのが現状。
- ・8月から観光により飛騨経済が動き始めることを考えると、個々の事業者は大変なことには違いないが、飛騨経済全体を大きく俯瞰してみると、資金繰り面では、そんなに悲観しなくてもいいのかもしれない。〈今はいいが、融資の据置期間が終了し、返済が始まったら心配という声〉
- ・据置期間が終わって返済が始まり出したら不良債権化するのではないかと・・・金融円滑化の精神は永遠→金融機関は条件変更にはあまり抵抗がなくなっている→コロナの影響での条件変更は100%応じる。(ただし、コロナ便乗は不可)
- ・何度も条件変更を続けて生き延びできたリーマン後と同じなので、おそらくそんなに心配ない。

- ・リーマン後も同じことを言われたが、年率7%程度保証協会残高は減り続けた。(実は、しっかり返済された)

3. 地域支援の新たな取り組み

- ・飛騨市のプレミアム商品券(地域振興券)の一部(約2億円)を、紙の振興券を刷る前に先行して、さるぼぼコインに乗せ電子マネー化した(たぶん全国どこにもやっていない)→行政の考え方の変化?(飛騨市はさるぼぼコインは、ひだしん独自のものであり、他の銀行にはない知見なので、是非活用させてもらいたい)
- ・GOTトラベルキャンペーンとさるぼぼコインとのタイアップを行う。「飛騨高山スマホでお得旅キャンペーン」
- ・飛騨高山にGOTキャンペーンで旅行に来た人に、旅館・ホテルチェックイン時に金額に応じてさるぼぼコインをプレゼント
- ・4万円以上8,000円、3万円以上6,000円、2万円以上4,000円、1万円以上2,000円、一万円以下1,000円
- ・事業規模は、3,000万円、飛騨・高山観光コンベンション協会と協同して、産業活性化策支援事業補助金を活用
- ・クラウドファンディングを利用した事業者支援を積極的にを行い、3~6月で14件のファンディング。
- ・当組合取り分手数料は、事業者還元するので手数料5%でできる。
- ・ファーボ飛騨・高山で培ったクラウドファンディング運営のノウハウがここにきて役に立っている。
- ・〈例〉白川村城山館 支援者326人、5,844千円
- ・お家で飛騨牛キャンペーン 支援者10,002人、1億1,437万円
- ・飛騨のお米の純米酒と給食で使われなかった生乳を使ってヨーグルトトリキュールを作りたい支援者309人、1,599千円
- ・官民共同飛騨地域医療支援プロジェクト(寄付型CF)など
- ・大きなものから小さなものまで、職員が相談からページ作成まで自ら行なっている。

<ニコニコボックス>

●堺 和信さん、下屋 勝比古さん

新年度も1ヶ月が過ぎました。相変わらずの水害やコロナ対策で、とても心配な毎日ですが負けずに頑張りましょう。さて今日気職業奉仕委員会担当例会です。黒木さんのお話しの事で大変興味深いものと楽しみにしています。

●門前 庄次郎さん

先日の「お目覚め懇親会」、風情のある露天風呂にも入らせて頂き、とても楽しいひと時を過ごさせて頂きました。今年度の改めての良いスタートになったと思います。会長・幹事さん、有難うございました。また野尻さんには、大変な気遣いを頂き「山のホテル」を満喫させて頂きました。有難うございました。

●内田 幸洋さん、田中 武さん、垣内 秀文さん、下屋 勝比古さん

7月25日のクラブお目覚め会は、野尻さんの大変なお心遣いの中「山のホテル」でゆったりと過ごせました。道中あちこちで山崩れの現場を目にして少し心が痛みました。

●井辺 一章さん

先日の西ロータリーゴルフ大会で当りが出ました。感謝感謝!!

●萱垣 敬慈さん

7月19日に行われた高山西RCのゴルフコンペ、名誉のブービー賞を頂きました。田中武さんからは「ゴルフは運だ!」と教えられて来ましたが、最近「ゴルフは道具じゃないかな」と心がブレ始めています。

●ゴルフ人気投票

7月19日西クラブゴルフ大会、投票された中から一部について沢山いただきました田近さん、斎藤さん、内田さん、門前さん、長瀬さん、萱垣さん、松田さん、から返戻分を頂きました。田近さんベスグロ・ニアピン・準優勝いただきましたのでさらに追加で相乗りです。